

2025 年度 秋学期・第3・第4クォーターの授業評価を終えて

文学部長 佐々木倫朗

2025 年度 秋学期・第3・第4クォーターの学期末に実施された学生による授業評価アンケートの集計結果がまとまりました。ここに報告させていただくとともに授業評価アンケートの実施・分析にあたってご協力いただきました教職員・関係者各位に御礼申し上げます。

本アンケートは、15の質問から構成され、大きくわけてQ1～Q6は「教員努力（教員による授業への取り組み）」、Q7～Q9は「学生努力（学生による取り組みと成果）」、Q10～Q12は「授業の満足度（学びの成果）」、Q13は「授業への出席率」、Q14は「平均学修時間」Q15は「自由記述」といった内容に区分されます。質問の構成から理解していただければと思いますが、アンケートは、単純に授業の感想や印象の良し・悪しを問うものではなく、学生の側からはどのような印象を授業に対して持ったのかと共に、どのように授業に取り組んだのかを学生が自身で評価する内容も含まれています。そのため、教員の側では自身の授業の振り返りや改善を行う指針になると同時に、学生の側にも自身の取り組みの振り返りを行う機会になるものでもあると思います。また「自由記述」に関しましては、授業で理解が深まった点や授業の改善点等について寄せられるコメントは、授業の改善の大きなヒントになります。是非積極的かつ建設的なコメントをいただきたいと思います。

アンケート結果を見ていきますと、Q1～Q6の「教員努力」は大半の授業において高い評価を得ており、個々の教員がアンケートの結果や分析等を踏まえて改善を行い、授業を展開している結果であると思われます。それに対して、「学生努力」では、Q7の授業に臨む姿勢やQ13の出席率の高さと比較して、Q8の質問・調査努力やQ9の目標達成、Q14の平均学習時間といった学修行動が低調な状況となっています。前回のアンケートに比べて改善傾向にあるようですが、このことは学生の皆さんの謙虚な振り返りであると共に、学修意欲を高めるためには、教員の側は授業内容や授業方法に更なる工夫が求められていることを読み取ることができます。その他にも、結果を丁寧にみていくことで授業改善のヒントを見つけることができると思いますので、教員の方々におかれましては、アンケート結果を積極的に活用され、今後の授業運営に役立てていただきたいと思います。

また以前からの課題ですが、授業評価アンケートの回答率が50%を下回っています。授業評価アンケートが授業改善の指針であることを授業時に伝えながら、回答率を高めていく努力を継続する必要性を感じます。この点も合わせまして、すべての関係者の方々に今後とも本アンケート、およびそのフィードバックにご理解とご協力をお願い申し上げます。